

全国健康保険協会青森支部のレセプトデータ等を活用した分析結果の概要 (青森支部の傾向)

【はじめに】

- ある特定の集団における医療費の水準を考える場合に代表的な指標の一つとして「1人当たり医療費」があります。この1人当たり医療費は「1人当たり件数（受診率）」「1件当たり日数」「1日当たり医療費」の三要素に分解することができて医療費を分析していくうえで基本的な指標となります。

【1. 青森支部と全国値との医療費の比較】

- 青森支部の加入者1人当たり医療費は181,278円で全国平均を3,970円上回って全国18位。年齢調整後では全国平均を1,838円下回って175,471円となり全国27位。年齢調整により全国比の医療費が下がるのは、青森支部は医療費の高い年齢層（高齢者等）の加入者の割合が高いことなどによるもの。
- 年齢差を除いた実質的な医療費の地域差は1,838円（乖離率1.0%）でその内訳は全国値と比較して入院医療費が1,383円低く、入院外医療費が2,055円高く、歯科医療費が2,510円低くなっていた。年齢階級別に見ると青森支部は20歳代から40歳代の1人当たり医療費が全国平均を上回っていた。
- 青森支部は入院外1人当たり医療費が全国8位と高い水準。青森支部の入院外の医療費の各要素の状況は医療費を構成する三要素（受診率、1件当たり日数、1日当たり医療費）が全て全国値より高い。特に受診率は全国値を上回って推移している傾向が見られた。
- 青森支部の入院外医療費の三要素について年齢階級別で見ると受診率は9歳以下、50歳代、60歳代、70歳以上が全国値よりも高い。1件当たり日数は9歳以下、20歳代、30歳代が多い。1日当たり医療費は20歳代～50歳代が全国値より高い。
- 疾病分類別に見ると青森支部は医療費全体に占める生活習慣病の割合が全国値よりも高い。（青森支部35.7%、全国30.7%）特に40代から大きく増加し始め60歳代以降では医療費全体の概ね5割を超えていた。青森支部は「悪性新生物（がん）」「高血圧症」「糖尿病」「脳血管疾患」の割合が全国値よりも高い。

【2. 青森県内における医療費の比較】

- 二次医療圏別に1人当たり医療費の水準を見ると青森地域が最も1人当たり医療費が高く、高齢化による影響と入院外医療費による影響が大きい。入院外の1人当たり医療費が高い地域は青森地域と津軽地域。下北地域は入院外の医療費は全国値より低くなっていたが入院医療費は全国値を上回っていた。

- 業種別に医療費を見た場合に年齢調整後の 1 人当たりの医療費は高い方から「不動産業」「その他の運輸業」「医療業・保健衛生」の順。「道路貨物運送業」「職別工事業」などの業種は入院外の受診率は低くなっていたが入院における受診率と 1 人当たり医療費は高くなっていた。
- 二次医療圏別に入院患者の流出状況を見ると西北五地域、上十三地域、下北地域に居住している方が他医療圏に入院される割合が高くなっていた。疾病別に見ると「がん」「心疾患」「脳血管疾患」については、西北五地域の患者は津軽地域への流出割合が多く、上十三地域の患者は八戸地域への流出割合が多く、下北地域の患者は青森地域への流出割合が多くなっていた。

【3. 青森支部と全国値との健診データの比較】

- 青森支部加入者の特定健診データについて高齢化の影響を除いた年齢調整割合を全国値と比較すると男女ともに「喫煙者の割合」「空腹時血糖 100mg/dl 以上、126mg/dl 以上の者の割合」「血圧高値（130/85mmHg 以上または服薬）の者の割合」「高血圧（140/90mmHg 以上または服薬）の者の割合」が全国値を大きく上回っていた。平成 30 年度の喫煙率は、男性は全国ワースト 1 位、女性は全国ワースト 2 位となっていた。
- 2015 年度からの推移をみると、空腹時血糖のリスク保有割合「空腹時血糖 100mg/dl 以上、126mg/dl 以上の者の割合」については男女ともに全国値に比べて高い水準にあるが青森支部と全国値との差は縮小傾向が見られた。
- 胃がん、大腸がん、肺がん検診で要精密検査となった方は男女ともに年齢とともに高まる傾向にあり 50 歳代以降は特に増加していた。男女別にみるとほとんどの年齢階級で男性が高くなっていた。